

自 平成29年4月 1日  
至 平成30年3月31日

## 平成29年度事業計画及び収支予算

一般財団法人NHKサービスセンター

# 平成29年度事業計画

## 目 次

事業運営の基本方針 .....	1
事業運営の重点事項 .....	2
<b>広報プロモーション業務</b> .....	2
1  広報展開推進業務 .....	2
2  NHK番組広報業務 .....	2
3  NHK広報番組制作業務 .....	3
4  NHK番組周知・広告業務 .....	3
(1) 多メディアを活用した広報展開業務 .....	3
(2) 外部団体との相互協力による広報展開業務 .....	4
(3) 写真業務 .....	4
5  番組公開・展示・催物業務 .....	4
(1) NHK公開番組、教育・ファミリーイベント等の運営実施業務 .....	4
(2) 展示・展博業務 .....	5
(3) 催物業務 .....	5
6  放送教育広報業務 .....	6
<b>広報コンテンツ業務</b> .....	6
7  NHK番組情報誌「ステラ」、 「ラジオ深夜便」 業務 .....	6
8  コンテンツ業務 .....	7
(1) NHK語学講座番組音声テキスト業務 .....	7
(2) コンテンツ制作・販売業務 .....	7
(3) NHK番組記念品業務 .....	8
<b>視聴者サービス業務</b> .....	8
9  NHKスタジオパーク業務 .....	8
10  「NHKホール」 「NHKふれあいホール」 業務 .....	9
11  NHK放送博物館業務 .....	9
<b>東京オリンピック・パラリンピックおよび4K・8K関連業務</b> .....	10
12 東京オリンピック・パラリンピックおよび4K・8K関連業務 .....	10
<b>視聴者の意向吸収・理解促進業務</b> .....	11
13 視聴者の意向吸収・理解促進業務 .....	11
<b>社会奉仕業務</b> .....	12
<b>コンプライアンス</b> .....	12

## 事業運営の基本方針

平成29年度は、「平成28～30年度 3か年経営計画」の折り返しの年度として、各組織が事業展開について具体的な目標を掲げ、役職員が意欲と創造力をもって、その実現と改革に向けて継続的な挑戦を続ける。それにより財団は、NHKグループの中で、広報・視聴者サービス業務の専門家集団としての地位を確固たるものにしていく。

財団の役割である“公共放送の周知・普及と番組の広報”を果たすため、魅力的で見応えのあるコンテンツの広報を展開する。

国際放送や2020年東京オリンピック・パラリンピック、超高精細な4K・8Kスーパーハイビジョン等の新しい放送・サービスについても、多様なツールを活用して効果的な広報活動を推進する。

また、視聴者とNHKとの“絆”の強化を図るため、NHKスタジオパークやNHK放送博物館の運営、番組の公開、展示、催物の開催、視聴者の意向把握等、公共放送の理解促進に資する多様な視聴者サービスを積極的に展開する。

併せて、地域放送局の広報活動や営業活動等を支援する事業を本部と支局が連携し、実施していく。

事業運営においては、「平成28～30年度 3か年経営計画」に基づき、以下を経営の重点目標としてその実現に努める。

- NHKとグループ各社の広報・視聴者サービスを補完・支援するため、経営資源を集中し、斬新で効果的な企画を積極的に提案する。
- 支局と本部の連携を強めて、全国ネットワークを堅持し、放送局と視聴者をつなぐ事業を支援し、地域の活性化に積極的に寄与する。
- 28年度に実施した組織体制整備の定着を図り、業務の効率性を高めるとともに、総合力の発揮を図るため、財団職員の連携をいっそう強化していく。
- 29年度についても収支均衡を達成し、財政の安定化を図るとともに、公益目的支出計画を着実に実施する。
- NHKグループの広報・視聴者サービスを将来にわたり担える高いマインドと優れたスキルを備えた人材を育成する。
- NHKグループの一員として、高いコンプライアンス意識を職員一人ひとりが共有し、信頼性と透明性ある業務運営を行う。
- 29年度を財団の「働き方改革」元年と位置づけ、各職場の実態に応じた自律的な取り組みにより、働き方そのものを見直し、労働時間の短縮を図る。

# 事業運営の重点事項

## 広報プロモーション業務

### 1 広報展開推進業務

- 財団の総合力を発揮するため各部および支局の業務展開を支援・調整する。
- 大河ドラマや連続テレビ小説では、組織横断的な業務連携と外部団体との相互協力業務を推進。
- 国際放送の広報・普及に資する企画を提案。
- 地域発ドラマや特集番組等では、支局や各部と連携して関連業務の受注を推進。
- 組織横断的な「広報展開推進チーム」を編成し、企画の開発・提案に努める。
- 財団各部および支局が展開する多彩な業務をNHKおよび関連団体にお知らせする季刊広報誌「@nsc\_PR」を発行。
- NHKおよび財団各部の動向や諸情報を収集・周知する「広報展開推進室通信」を随時発信。

### 2 NHK番組広報業務

- NHKの見応えある魅力的なコンテンツを視聴者に効果的にアピールしていくため、働き盛り世代に届く広報展開を推進。
- 広報写真や出演者インタビュー、記事の見出しとなる重要な情報等広報ツールを精査し、選択と集中で効果的かつ効率的に発信。
- 大河ドラマではWEB展開を重視する観点から、地方メディアの特集企画や地方自治体が主催するイベント等を活用し、SNSを含めたあらゆる媒体を使って積極的に情報を発信。
- 定時番組では、各回の番組のポイントを絞って魅力を伝えるとともに、複数の番組をひとつのテーマでくくり、短期集中で複合的に魅力を伝えるキャンペーン広報を展開。特集番組では、“わざわざ見たい”と思わせる際だった

セールスポイントを集中的にアピール。

- 番組情報は、広報・視聴者サービス業務を担う財団の強力な武器であるとの認識のもと、財団内外でのいっそうの有効活用を図る。

### 3 NHK広報番組制作業務

- 総合テレビでは「まとめ1分スポット」(土・日曜)、「BSコンシェルジュ」(金曜)、「どーも、NHK」(日曜)等の広報番組やスポットを制作。
- BSスポットは、日付版と当日版に分け、番組の見どころを紹介。
- ラジオ第1の「とっておきテレビ」(日曜)では、月1回、地上波の大型・特集番組やドラマ番組の取材秘話や番組制作の舞台裏を紹介。
- 公共放送NHKの取り組みや考え方を視聴者に伝える経営広報番組および各種キャンペーン番組を企画・制作。
- 大阪放送局のスポットや経営広報番組を制作。
- 新番組「ごごナマ」(月曜～金曜)の番宣コーナー(金曜を除く)を制作。
- 「9時前プレマップ」(月曜～木曜)「週末プレマップ」(土曜)を「おしばん」(月曜～金曜)とタイトル変更、内容を刷新して放送。
- 「テレビ大好き」(日曜)に変わるNHKのデジタル情報を伝える「デジ・なび」(月2本)を制作。
- ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック関連の広報番組やスポットを制作。

### 4 NHK番組周知・広告業務

#### (1) 多メディアを活用した広報展開業務

- 印刷、WEB、デジタルサイネージ等、多様な媒体を活用した広報展開を提案し、NHK番組のさらなる効率的、効果的な周知を実施。
- BSのいっそうの普及と受信契約を推進するため、月刊の番組広報誌「BSガイド」をはじめとする広報印刷物を見直すとともに、より利便性の高い広報媒体の制作をめざす。
- 地域放送局との連携をいっそう強化し、地域発ドラマの広報活動をポスタ

ーやパンフレット等の制作を通じて、積極的に支援。

- 公共放送としてのNHKの役割や受信料制度に対する理解促進、受信契約推進に資する広報の積極的提案により、その展開を図る。
- 国際放送の周知に向け、若者を対象とした積極的な企画・提案を行なう。
- ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピックに合わせ、新規媒体、外部媒体の活用等の広報展開を積極的に提案し、五輪放送の周知に努める。
- スマートフォン、タブレット端末、パソコン等のデジタル系メディアを連携させて、それぞれの特性を生かしたよりきめ細やかな広報活動を実施。
- ホームページに加え、拡散性の高いSNSを活用。さらにWeb広告を強化することで、若年層やNHKへの親和性が低い層に対して的確に番組情報を届けられる広報を実施。
- 番組広報HP「NHK\_PR」をキュレーション型（選者が推薦する形式）サイトとして運営し、見やすく解りやすい新しい形のWeb広報を推進。

## （2）外部団体との相互協力による広報展開業務

- 大河ドラマや連続テレビ小説の広報のため、舞台地、ロケ地、ゆかりの地の関係自治体や公共団体等との相互協力によるポスター、冊子類を積極的に企画・制作。
- NHKの健康番組・実用番組等の番組情報を掲載した冊子類を外部団体に向けて企画・提案し、多面的な広報展開を図る。

## （3）写真業務

- ポスター、パンフレット等番組周知印刷物、「NHKウイークリーステラ」、番組広報写真等の撮影のほか、NHK出版のドラマガイド誌等の撮影業務を積極的に展開。また、NHK交響楽団定期公演や「ネットワークNHK」誌の撮影業務も継続して実施。

## 5 NHK番組公開・展示・催物業務

### （1）NHK公開番組、教育・ファミリーイベント等の実施運營業務

- NHKホールでは、「うたコン」「ザ少年倶楽部」等の定時番組のほか「NHK紅白歌合戦」「思い出のメロディー」「NHKのだ自慢チャンピオン大会」等の特集番組の公開を実施。
- NHKみんなの広場ふれあいホールでは、新番組「ごごウタ」をはじめ、「セッション2017」「みんなDEどーもくん!」「ライブビート」等の定時番組や特集番組等を実施。
- 都内各地では、「東京落語会」(港区・ニッショーホール)、「夏期・特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会」等を実施。また、関東甲信越各放送局が実施する公開番組等を支援。
- 「NHK全国学校音楽コンクール東京都・関東甲信越ブロック・全国各コンクール」「NHK杯全国高校放送コンテスト・決勝」「キミが主役だ!NHK放送体験クラブ」等の教育イベントを実施。
- 「NHKチャリティーコンサート おかあさんといっしょファミリーコンサート」(春・秋)のほか、「おかあさんといっしょ宅配便 ガラピコぷ〜小劇場」「ワンワンとあそぼうショー」等のファミリーイベントを全国各地で開催。
- 「トライBS〜記念フォトゲット〜」を「NHK渋谷DEどーも」や「NHK文化祭」等のイベントのほか「オープンゴルフ選手権競技」や「全国都道府県対抗駅伝」等の大型スポーツイベントで実施。

## (2) 展示・展博業務

- 大河ドラマ、連続テレビ小説等の番組展、番組出演者によるトークショーを全国各地で開催。
- 「NHK渋谷DEどーも」「NHK文化祭」「NHKワンダーランド」「NHKふれあいホールギャラリー」等で視聴者との交流を図るイベントを展開。
- 「NHKハート展」の全国展開をはじめ、「NHK介護百人一首」等のNHKハートプロジェクト関連イベントを開催。
- 「上橋菜穂子と<精霊の守り人>」展、「川瀬巴水」展等の展覧会を全国各地で開催。そのほかNHK番組広報や視聴者サービスに資するタイムリーな企画を開発、実施。

## (3) 催物業務ほか

- 「宝くじ文化公演」(主に地域の交響楽団によるクラシック演奏会)と「宝



くじふるさとワクワク劇場」(地元出演者とお笑い芸人や喜劇役者との共演)を全国22会場で行なう。

- 「NHKグループ合同入局式・入社式」(4月3日)のステージ進行・会場運営をNHK放送研修センターと協力して実施。

## 6 放送教育広報業務

- 教師を対象にした「NHK for School×アクティブ・ラーニング 実践ワークショップ」を全国8か所で開催。模擬授業と授業作り演習の2つのワークショップを通して、NHK for Schoolの活用を促進。
- 若手教師や教職を志す大学生を対象に「NHK for School 基礎セミナー」を全国35ヶ所で開催。電子黒板や大型テレビ、パソコン等を使って多様なコンテンツを紹介。
- 放送教育を実践・研究している教師の組織「全国放送教育研究会連盟(全放連)」の事務局業務を担当するとともに、全国大会の運営を支援。
- 放送教育ブロック大会の充実・活性化を図るため、各地の研究会の理事会への出席や大会への助言、教育研究者の派遣等のアドバイザー業務を実施。
- 番組制作現場と教育現場を繋ぐウェブサイト「放送教育ネットワーク」の管理・運営およびNHK for Schoolのブログと教師向けデジタルコンテンツ「授業力アップ」を更新・制作。
- 「NHK杯全国中学校・高校放送コンテスト」の支援と事務局業務を担当。
- タブレット端末を利用した放送教育の実践を研究する「タブレット研究会」の事務局業務を担当。

## 広報コンテンツ業務

### 7 NHK番組情報誌「ステラ」業務、「ラジオ深夜便」業務

- 週刊番組ガイド「NHKウイークリーステラ」、月刊誌「ラジオ深夜便」の編集、発行のほか、随時、臨時増刊号や関連MOOKを編集、発行。
- 定期購読者の管理を新システムへ移行し、長年購読している顧客への戦略的サービスを企画。
- ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピックに向けて関連情報を随時

掲載し、併せて観戦ガイドの臨時増刊号を編集、発行。

- 大河ドラマ「おんな城主直虎」については、立体的な楽しみ方を読者に提供し、大河ドラマとしては初めての「メモリアルブック」の編集、発行を計画。
- 月刊「ラジオ深夜便」は、好評のアンカーアナウンサー企画を継続するとともに、新規連載記事を設け、より魅力的な誌面作りに努める。これに連動して定期購読キャンペーンを企画し、購読者増をめざす。

## 8 コンテンツ業務

### (1) NHK語学講座番組音声テキスト業務

- ラジオ第2放送とEテレで放送しているNHK語学講座番組と連動する「音声テキスト(CD)」を毎月17講座(※)発行。「基礎英語1・2・3」の3講座はCD付テキストの形で発行。

#### ※講座内訳

英語：「基礎英語1・2・3」「ラジオ英会話」「高校生からはじめる現代英語」「入門ビジネス英語」「実践ビジネス英語」「英会話タイムトライアル」(以上ラジオ)「おとなの基礎英語」(テレビ)

その他の言語：「まいにちドイツ語」「まいにちフランス語」「まいにち中国語」「おもてなしの中国語」「まいにちスペイン語」「まいにちロシア語」「まいにちハングル講座」「まいにちイタリア語」(以上ラジオ)

毎月発行のほかに、ラジオ「アラビア語講座」CDを年2回(3月、9月)、ラジオ「ポルトガル語入門」CDを年1回(3月)発行。

- パソコンやスマートフォンの利用者向けに「ラジオ英会話」をはじめ19講座でCD音声の配信を継続。番組の有料ダウンロード配信も4講座で実施。また、NHK出版が新たに販売するダウンロード付書籍に協力し、月刊語学CD音声を提供。

そのほか、NHK出版と共同でデジタル時代に向けた語学教材の研究・開発を実施。

### (2) コンテンツ制作・販売業務

- NHKで放送された番組やアーカイブ素材等を活用した“NHKCD”

を発行。また、独自に文芸作品等の朗読を収録し、CD化や音声配信を実施。

- 財団の配信サイト「NHKサービスセンター ダウンロードストア」の周知・普及を図り、販売を強化。
- 制作・発行した商品を、財団の顧客リストによるダイレクトメール（DM）や財団のネットショップ、スタジオパークのショップ等で直接販売。また、レコード会社を通じて全国のCD店での販売や、NHK関連団体や通販会社と提携し新聞広告、オンラインショップ、各社リストによるDM等で販売。
- NHKラジオ番組「ラジオ深夜便」に楽曲を提供するとともに、「ラジオ深夜便のうた」のCD化を実施。
- 「NHKワールドカレンダー」「ラジオ深夜便 誕生日の花カレンダー」「女性の手帳」等の制作・販売。
- 国および地方自治体等の公共施設の展示映像制作に積極的に参画。
- NHK各放送局の見学施設展示用コンテンツを企画提案。

### （3）NHK番組記念品業務

- NHKネットラジオ「らじる★らじる」のキャラクター「らじる」や「連続テレビ小説」「大河ドラマ」「NHKのど自慢」「ラジオ深夜便」等の番組に関連する放送記念品の企画開発・制作・販売。
- 「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHK放送博物館」等への来館者や「NHKのど自慢」等の地方の公開番組、NHK各放送局の会館公開の来場者に対して放送記念品を販売。

## 視聴者サービス業務

### 9 NHKスタジオパーク業務

- 視聴者サービスの最前線に位置する「放送のテーマパーク」として、放送の魅力伝える多彩な展示やイベントを展開。
- 子育て世代を対象とした企画を「夏・春のスタパ祭り」や「渋谷DEども」等の大型イベントに合わせて実施し、結びつきをより深める。
- 海外からのお客様にも楽しんでいただける施設として、展示や案内設備を充実するとともに国際放送の広報に努める。

- 放送センターの建替えに向けて、工事期間中の視聴者サービス施設の検討を進める。
- スタジオカフェでは、番組関連メニューを新たに開発するほか、お年寄りや幼児、障害のある人のニーズに応えるメニューを提供。
- お客様が快適に見学できるよう、おもてなしの心をもって接するとともに、地震や火災などに備え、来館者への的確な対応能力を高める訓練等を定期的に実施し、お客様の安心・安全を確保する。

## 1 0 「NHKホール」「NHKふれあいホール」業務

- NHKホールは、公共放送NHKが行なう多彩な公開番組やイベント、NHK交響楽団の演奏会を通じて、視聴者の公共放送への理解と共感を深める。
- オペラ、バレエ、クラシック音楽からポップスまで多目的な活用ができる数少ない音楽ホールとしての特徴を活かし、外部利用公演を招致し、NHK副次収入の確保に努める。
- 万一の災害から入館者を守る安心・安全対策のいっそうの充実を図るため、消防・防災訓練を複数回実施し、ホールスタッフのスキルアップに努める。
- 夏季集中工事（8月）のほか、適時に建物・設備の補修・更新工事を遅滞なく行い、2040年まで利用年数の延長を図る。3年目となる天井落下防止対策工事では、ロビー天井部分を完成させ、客席天井については工事と公演期間を調整しつつ適宜実施。
- ふれあいホールは、NHKスタジオとしての稼働率と安全管理の向上をめざす。

## 1 1 NHK放送博物館業務

- 「放送の過去・現在・未来」のコンセプトに基づき、歴史展示はもとより、放送体験スタジオや8Kシアターの効果的な運用を図り、若者をはじめ幅広い世代の人たちに放送への理解と親しみを深めてもらう取り組みを継続。
- 企画展を3回程度開催し、放送文化研究所やNHK関係部局との連携をより強化して、放送の博物館ならではの充実した内容とする。また企画展は地方局への巡回展も検討。

- 夏休み期間中には、従来の「中高生の放送講座」「ラジオ工作教室」に加え、新たに小中高生向けイベントを設けて、青少年や若い世代との接触機会を増やす取り組みを実施。
- 企画展やイベントの開催について、NHKの広報番組やスポット、ネットクラブ等の媒体を積極的に活用して周知を図るとともに、博物館を知ってもらうためのPR・広報も行い、来館者増につなげる取り組みを実施。

## 東京オリンピック・パラリンピックおよび4K・8K関連業務

### 1.2 東京オリンピック・パラリンピックおよび4K・8K関連業務

#### (1) 2020東京オリンピック・パラリンピック関連業務

- 2020東京オリンピック・パラリンピック実施本部が募集したイベント等の企画「⇒TOKYO2020プログラム」を積極的に推進。
- 東京オリンピック・パラリンピック関連の広報番組やスポットを制作。
- 「NHKウイークリーステラ」は、今年度から2020年まで東京オリンピック・パラリンピックに向けての連載を開始。
- スタジオパークでは、NHKの東京オリンピック・パラリンピックの取り組みをPRするメイン会場としての役割を果たすため、ハード・ソフト面での整備を進める。
- NHK放送博物館では、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、関連イベントの開催等を検討。

#### (2) 4K・8Kスーパーハイビジョン関連業務

- 4K・8Kスーパーハイビジョンの試験放送の番組を紹介する「スーパーハイビジョン・なび」(月1本)を制作。
- 試験放送用に4K・8K映像で広報番組や番組宣伝スポットを制作。
- 「ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック」、「NHK杯国際フィギュアスケート競技大会」「NHK紅白歌合戦」等で8Kパブリックビューイングを実施。

- ふれあいホールでは、8Kスーパーハイビジョン試験放送の一般公開会場として、より多くの視聴者にその魅力を伝える広報活動を展開。
- NHK放送博物館では、講演会とコラボした8Kビューイング等の周知・広報イベントを実施。
- 4K・8Kスーパーハイビジョンの理解促進・普及に資する企画を提案。

## 視聴者の意向吸収・理解促進業務

### 1.3 視聴者の意向吸収・理解促進業務

- 「みなさまの声にお応えします」を基本に、電話、メール、手紙、来訪等でNHKに数多く寄せられる視聴者の声に、丁寧で速やかに対応し、視聴者の満足度をより高めるとともに、経営や放送現場へ迅速で的確な情報を提供。
- NHKの4K・8Kスーパーハイビジョン、インターネット送信や海外発信等の新たな展開に対して、視聴者の理解促進と的確な意向収集を図るため、デジタル対応や英語での対応体制を強化。また、次世代の公共メディアへの理解を深めるため、中・高校生を対象とした訪問学習をさらに充実。
- NHK地域放送局の視聴者対応業務の軽減を図るとともに、視聴者対応の品質向上に資するため、スーパーバイザーの派遣も含め、各地域放送局との業務連携をいっそう強化。
- 番組改定時等の説明会や外部育成機関による研修を随時実施し、コミュニケーターの業務知識の習得とスキルアップを図る。また、各支局の視聴者センター勤務者の研修を行うほか、NHKが実施する地域放送局研修にも協力。
- NHKの管理職（D3昇格者）を対象とした「CS意識向上」研修は、受講者が視聴者からの電話に直接対応し、「ふれあいセンター」業務の理解を深める場であり、さらに内容の充実を図るようNHKとの連携を強化。
- デジタル班（デジタル関係情報の分析、資料作成、NHK関係部局との調整等）の体制強化を図り、デジタル関連の電話二次対応業務を開始。
- 首都圏での大規模災害に備えて、2020年設置予定のふれあいセンター（放送）札幌分室について、NHKと協力し、業務・要員体制の整備を進める。

## 社会奉仕業務

- 月刊誌「ラジオ深夜便」を全国1,900か所の老人福祉施設に寄贈。
- (社福)日本点字図書館による点字週刊誌「NHKウイークリーガイド」の編集・発行への助成。
- 「NHK杯全国中学校放送コンテスト」や「NHK杯全国高校放送コンテスト」のNHKとの共催・助成。
- 全国放送教育研究会連盟、NHK等が主催の「放送教育研究会全国大会」「地方放送教育研究大会」への助成及び放送教育推進のための調査・研究。
- NHKハートプロジェクトの一環として、「介護百人一首」の作品集を制作し、一般への無償頒布を実施。

以上を公益目的支出計画の事業として実施。

## コンプライアンス

### 1 リスクマネジメント、コンプライアンスへの取り組み

- 「リスクマネジメントとコンプライアンス推進の工程表」を作成、進捗状況を四半期ごとに検証して、理事長と常勤役員で構成する「リスクマネジメント委員会」に報告するとともに、「工程表」を更新し、活動を着実に実施。
- 業務プロセスの“見える化”によるリスクマネジメントの取り組みとして行っている「業務手順点検チェックシート」の更新作業を通して、各部の業務手順の継続的な点検と改善を行う。
- 10月から11月を「コンプライアンス推進強化月間」として、財団の行動指針である「私たちの約束」を再確認する「グループ討議」や「適正経理」「情報セキュリティ」強化等をテーマにした「リスクマネジメントに関する勉強会」等を実施し、職員のコンプライアンス意識の醸成、向上に取り組む。
- 財団職員一人ひとりに届く実効性の高いコンプライアンス活動を目指す取り組みとして昨年度から開始した、関連規程を各部の業務実態に即して解説する「出前研修」や月1回開催の「総務担当管理職会議」でのコンプライアンス関連法令のレクチャーを継続する。
- 高度化するサイバー脅威に対応した情報セキュリティの確保、運用、管理に努めるとともに、インターネット接続環境のNHKグループ共通IT基盤

への速やかな移行を図る。

- NHKグループとしての重要課題である「出金管理」「個人情報管理」等、NHKグループリスクマネジメント活動についても、積極的に取り組む。

## 2 内部監査の方針

- 内部監査室が発足して平成29年7月で丸三年となり、本部・支局のほぼ半数の部局を実地監査した。各部局の固有のリスクを洗い出し、改善を促すとともに、財団全体に共通するリスクについては、経営企画室を通して周知徹底を図った。

監査を通じてコンプライアンスの意識を組織に根づかせるべく、適正経理を中心に緻密な実地監査を実施する。

- 実地監査は、本部6か所程度（広報プロモーション、広報コンテンツ、視聴者サービス、経営企画室等）と支局2か所を予定しているが、NHKの内部監査室が財団の監査を29年度に行う場合には、対象部門や時期についてNHKと調整する。